

野焼きの重要性

タデ原の草深い湿地は、ほとんどの場合、春の野焼きのような人々の手によって維持されています。野焼きがなければ、成長の早い灌木と木が草原に生えはじめ、この地を森に変えてしまい、この湿原に生息してきた植物の多様性が失われてしまいます。

古い草の代わりに新たな草が芽吹くように、野焼きは早春に行われます。38 ヘクタールのタデ原湿原は、野焼きでの延焼を防ぐために、9 月ごろに、地元の人と訓練されたボランティアが、湿原を監理しやすいセクションに区分けします。

3 月の野焼きの時期が来ると、野焼きを行う地域の両端に火をつけ、火が真ん中へ燃える

ように調整します。そうすることで、最終的には燃えるものがなくなり、火は自然消滅します。ボランティアは、火があまりにも大きくなったり、制御不能になったりするようなことがないよう、火の調整を行うのに役に立つウォータージェットを持って、必要に応じて火を消します。深い湿地帯を除き、浅い水域や乾燥地帯は簡単に燃え広がります。野焼きはタデ原湿原を維持するためにとても効果的な方法です。